

ふるさとの味がぎっしり

12月20日（木）、生活改善連絡協議会（小野寺のり子会長）が、漬物や郷土料理全8品とお手玉を詰め合わせたふるさとバック便「母っちゃんの手っこ」30箱を発送しました。

このふるさとバック便は、当町出身で関東周辺に在住する人たちで組織する「ふるさと鶴田会」の総会で、生改連会員の手作り漬物を振る舞ったところたいへん好評だったため、このたび初めて同会会員を対象に注文を取り発送することになったものです。なお、ふるさとバック便は1箱3,000円で、好評の場合は今後も注文を受け発送する予定だそうです。小野寺会長は「全部手作りで自分たちの自信作です。喜んで食べてもらえたら嬉しいです」と笑顔で語ってくれました。



△懐かしいふるさとの味とともに愛情も詰まっています



あなたの地区の楽しい催しや出来事などを役場企画課広報国際係までどしどしお知らせください。(☎22-2111 内線264)

大人としての自覚を胸に

1月3日（木）、14日の成人の日に先駆け、県内一早い成人式が公民館で行われました。

今年は184人の対象者のうち161人（男86人、女75人）が式に臨み、久し振りに会う同級生や恩師とともに成人を祝いました。

弘前大学医学部に通う後藤真一さんは「大人として自覚ある行動をして町に貢献したいです。医師を目指しているので、なるべく県内に残って、県民に健康になって欲しいと思っています」と今後の目標について熱く語ってくれました。式後に行われた成人のつどいでは、恩師からのビデオレターが披露されるなど、会場は大変盛り上がっていました。



△中学生時代の恩師とともにリンゴジュースで乾杯する新成人たち

火災のない安全な町を目指す

1月6日（日）、消防団の出初め式が行われ、消防署、消防団、婦人防火クラブの約300人が、丹頂大通りから本町通りにかけて分列行進をし、勇壮なまとい振りと行進を沿道の町民に披露しました。

鶴田八幡宮で無火災祈願をした後、体育センターで行われた式典では、4分団と19個人に鶴田町長表彰、消防庁長官表彰の伝達、鶴田町消防団長表彰が行われました。

下山正彦消防団長は「昨年は大きな火災が無くおだやかな年でした。今年も消防活動に取り組み、消防技術を磨き、災害の少ない年であってほしい」と訓示を述べました。



△まとい部隊を先頭に勇ましく分列行進が行われました



△青森県警本部長と青森県交通安全母の会会長とともに記念撮影

交通死亡事故ゼロ500日達成

当町では平成18年8月17日から交通死亡事故が無く、平成19年12月29日で交通死亡事故皆無500日間を達成しました。

1月8日（火）、青森県警察本部において感謝状の贈呈式が行われ、山本副町長と交通安全母の会山本貞会長が出席し、坂明青森県警察本部長と間宮安子青森県交通安全母の会会長からそれぞれ感謝状が贈呈されました。

町交通安全対策協議会では、交通安全週間に合わせて街頭啓発を行ったり、町民の交通安全への意識を高める取り組みをしています。次の目標である交通死亡事故皆無1,000日を目指し町民一丸となってがんばりましょう。

服部幸應氏の食育のすすめ

1月13日（日）、国際交流会館で、教育委員会、朝ごはん運動推進本部主催の鶴田町文化講演会が開催され、服部幸應氏（服部栄養専門学校校長）による「食育のすすめ」と題した講演が行われました。

当日会場には約500人ももの町民が集まり、食育の大切さについて学びました。講演の中で服部氏は「選食能力、食文化の伝承、食糧問題の3つを学び身につけることが大切。8歳までに食育の教育が必要」と話し、学校での食育教育の必要性を訴えました。また、子どもは大人のまねをすることから「大人の食育」の重要性も合わせて話されました。



△会場は超満員、会場の外には3台のモニターが用意されました